

# 健康・医療戦略に係る総務省の主な取組みについて

平成27年6月17日

# 健康・医療戦略に係る総務省の主な取組みについて

1. 健康・医療・介護分野におけるICT化の推進 …… 3

# 1. 健康・医療・介護分野におけるICT化の推進

「戦略」における該当箇所

(2) 1) 健康・医療に関する新産業創出	○レセプト・健診情報等のデータ活用 ○インセンティブ付与
(4) 1) 医療・介護・健康分野のデジタル基盤の構築 2) 医療・介護・健康分野のデジタル基盤の利活用	○技術的な連携・調整 ○質の高い医療サービスの低コストでの提供

## 【これまでの実行状況】

- レセプトの電子化がほぼ100%となり、医療保険者による「データヘルス計画」(データを活用した保健事業)も始まったところであるが、必ずしも健康に無関心な層の取り込みが十分でないことが課題となっている。  
また、医療情報連携ネットワークについて、導入・運用コストの負担が大きく診療所や介護事業者の参加が十分に進んでいないことや、地域やベンダごとのカスタマイズにより情報の連携・共有が困難といった課題がある。
- この点、健康・医療戦略においては、レセプト・健診情報等を活用した保健事業の実施の推進、特定健診の受診率向上に向けたインセンティブの付与、ICTの利用による持続可能な医療サービスの提供の推進、在宅医療・介護連携のために必要な標準化、といった取組が掲げられている。
- これを受けて、ヘルスケアポイント等を用いて無関心層を取り込むICT健康モデルの実証や、在宅医療・介護分野の標準化を視野に入れつつ、クラウド等を活用した高品質かつ低廉な医療・介護情報連携モデルの実証を実施した。その結果、
  - 実証に参加した被保険者で、当初健康に無関心と回答した者のおよそ7割が健康に関心を持つこととなった。
  - 地域住民に運動プログラムを提供する取組を実証した結果、1日平均歩数が3ヶ月間で779歩増加した。
  - クラウド型で構築することにより、サーバ型に比べて50%のコスト削減効果が見込まれることが検証された。
  - 標準化団体(保健医療福祉情報システム工業会)において、在宅医療・介護分野において共有すべき標準的な項目がとりまとめられ、技術文書として公表された。

## 【今後の取組み方針】

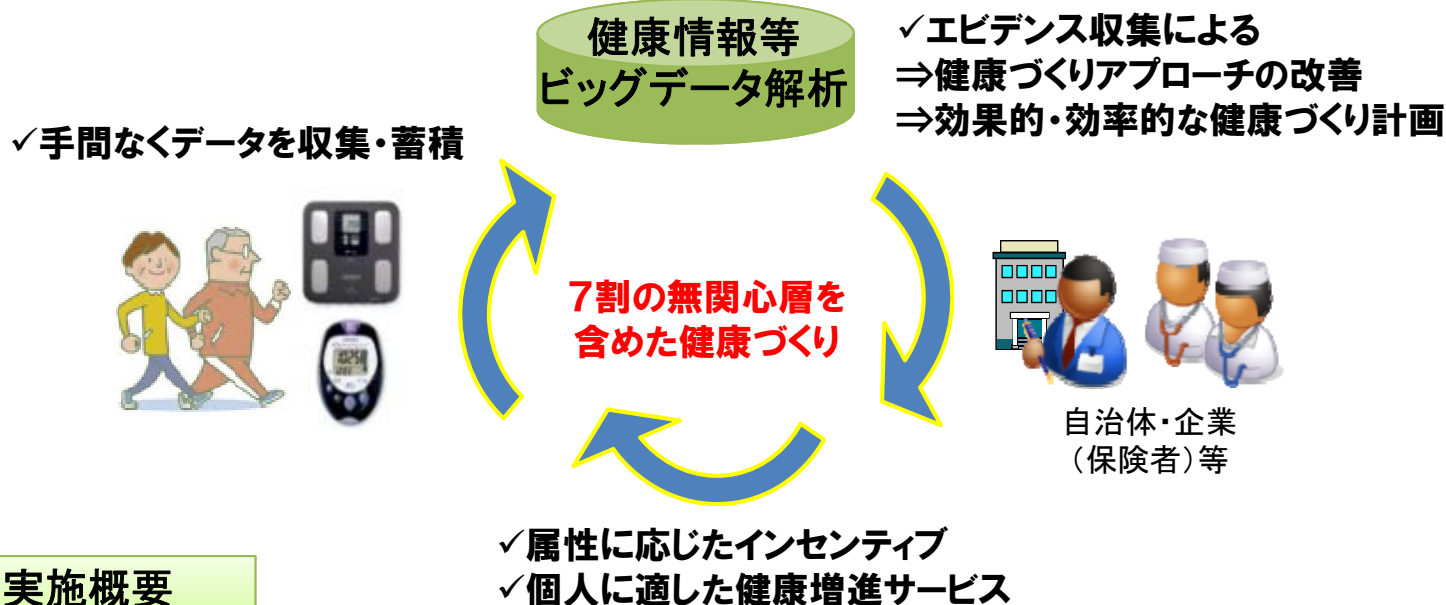
- 平成26年度の実証成果を踏まえて、引き続き、ICTを活用した健康づくりモデルや標準的な仕様による医療・介護情報連携ネットワークの普及展開を図る。
- また、クラウドサービスの普及やスマートフォン等のICT技術が進展し、国民ひとりひとりが簡便かつ効率的にデータを収集・活用できる環境が整いつつあることを踏まえ、健康・医療・介護に関する情報を個人が管理・活用し、より一層付加価値の高いサービスが受けられる環境を実現する仕組みのあり方等について、検討を行う。

# ICTを活用した健康づくりの推進に向けた取組

## 概要

【予算】 スマートプラチナ社会構築事業  
〈25補正〉 15.5億円の内数

- ヘルスケアポイント等を用いた大規模社会実証を行い、無関心層を含む国民全体の健康を維持・増進



## 実施概要

- 汎用的なポイントを活用したポピュレーションアプローチによる健康モデルの検証  
(実施場所:新潟県見附市、岡山県岡山市、千葉県浦安市等)
- 転職時等におけるプラットフォーム事業者間の健康データ移行の検証  
(株)NTTデータ経営研究所、住友商事(株)、NTT東日本(株)等
- 被扶養者の健康増進に向けた地域の企業や大学と連携した健康イベント等による健康モデルの検証(実施場所:藤沢市)

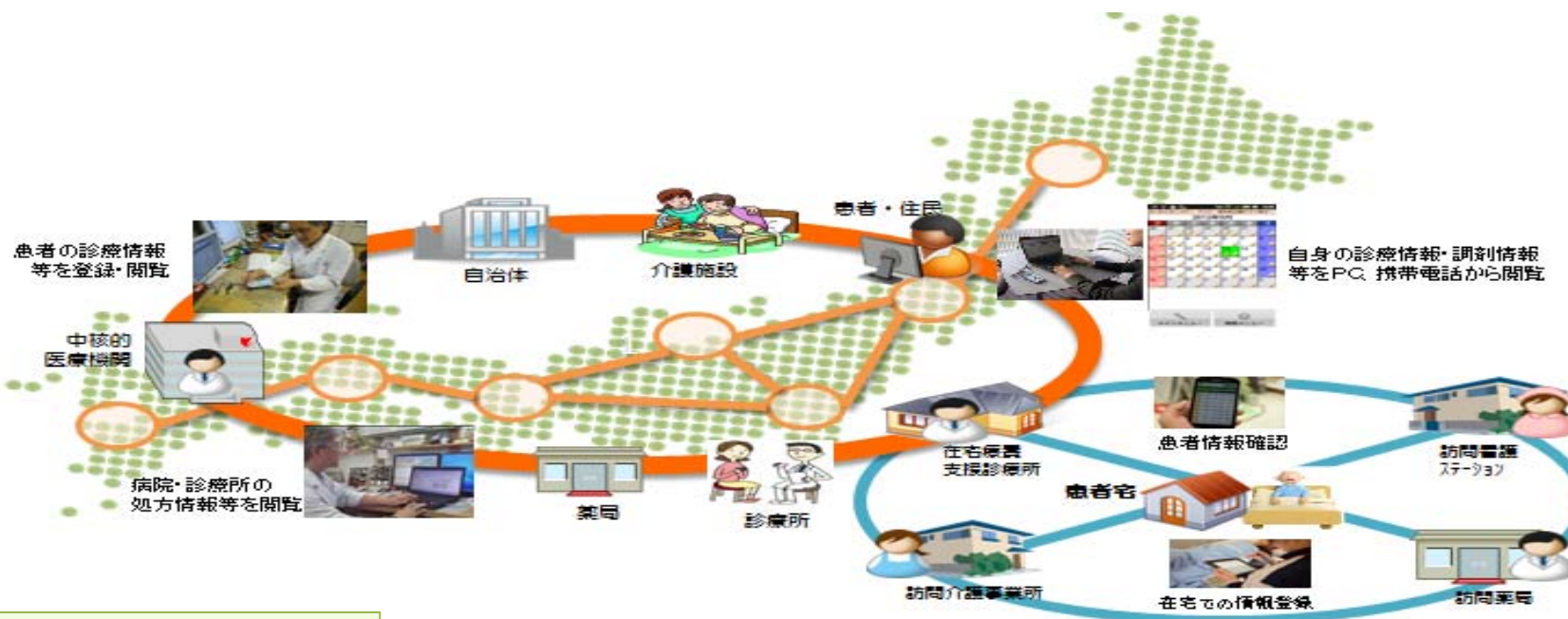
# 医療・介護情報連携ネットワークの推進に向けた取組

## 概要

【予算】 スマートプラチナ社会構築事業

<25補正> 15.5億円の内数、<26当初> 1.7億円

- 在宅医療・介護分野までを含め、クラウド等を活用した高品質で低廉な医療・介護情報連携基盤モデルを確立



## 実施概要

- クラウドやレセコン等の既存システムを活用した中小の診療所等も参加可能な高品質で低廉なミニマム医療情報連携基盤の検証(実施場所:岡山県、和歌山県)
- 在宅医療・介護分野の情報連携基盤において共有すべき情報項目の精査及び当該基盤の技術的検証(実施場所:千葉県柏市、宮城県石巻市等)